

私は昨年9月から本年3月まで約6ヶ月日本に滞在して、神奈川県海外技術研修員として身体障害者を支援するためのIT機器について技術研修を行い、専門的な知識を学び、また貴重な技術開発の実務研修を行うことができ、大変嬉しく思っております。

私の故郷、エクアドル共和国の首都キト市は標高2850mの高地にあり旧市街、セントロにはユネスコの世界文化遺産に指定された立派な教会や修道院が数多く残っており、その一方、北部にある新市街(ノルテ)には近代的なデパートやホテルが建ち並び、私が卒業したカリカ大学もその中にあります。

大学での専門はITエンジニアリングで、日本語講座についても鈴木先生に学びました。

来日前に働いていた“FINE”(The Foundation for the Integration of Special Children)は非営利・非政府組織で1992年に発足しました。FINEは障害をもつ人たちの生活の快適さと発展促進に注力しています。現在、心理学、理学療法、レクリエーション、および私が担当している新設部門のコンピュータエンジニアリングの4つの部門があります。

FINEでの私の仕事は障害を持つ人が学習したり、快適なライフスタイルで暮らすために役立つ機器を探したり、開発したりしております。また、これらの機器の使用方法を職員に教えることも行っております。

日本での技術研修は神奈川工科大学と神奈川リハビリテーションセンターの二つの場所で行いました。

神奈川工科大学ではロボットメカトロニクス学科の小川研究室では日本の障害者のための福祉制度を学び、高齢者や障害者のための機器の体験をしました。河原崎研究室では“Kinect”を用いたインタフェース開発の実習を行いました。その他松田研究室、吉留研究室、高尾研究室では研究内容の紹介を受けました。



研修先の神奈川工科大学

神奈川県リハビリテーションセンターでは技術エリアで次の技術研修を受けました。

- *車椅子のクッション構造の解説
- *モーションキャプチャーによる画像解析
- *口を使ってシリコン製キーボードへ入力する体験と画像処理など

他のエリアでは車椅子利用による潰瘍、精神障害者への食事の与え方などのセミナーに参加し、他の研究室の見学もしました。

また、小川教授から日本の福祉についての歴史や過去と現在の法律、障害者への便益などの違いなど多くのことを学び、日本とエクアドルの法律の違いを研究して、成果発表を行いました。

また日本滞在中は二俣川にある県の国際研修センター松本所長のご努力により、他の国から派遣された技術研修員や一般県民の皆さんとの交流を深め、多くの友人を得ることが出来ました。

最後にこの海外技術研修員制度を企画、運営している神奈川県の職員の皆さん、技術研修を受入れて頂いた大学とリハビリセンターの先生方、そして私を技術研修員として推薦して頂いたJECKの皆さん、日本在住のフレディさんに深く感謝致します。

帰国後はこの技術研修で得た知識と経験を活かして、この分野の専門家として育っていくよう努力して行きたいと考えています。また、今後エクアドルと日本の交流が益々盛んになり、両者の友情が深まって行くよう願っております。

(菊池正夫 訳)



Mr. Juan Carlos Andrade



研修内容打合せ

編集後記

専門家の国内外での支援・援助活動はその後どのように役立っているのでしょうか?非常に気になることです。菊池・内倉両会員の報文は、支援・援助活動のフォローアップに触れていることで興味深いものです。息抜きになるようなエッセイとして、工藤会員から「花ほど心をいやすものがあるでしょうか」の寄稿がありました。これは数回の連載にする予定なのでご期待ください。同様な、エッセイを募集いたします。(大平一昭)

JICA帰国専門家連絡会かながわ会報 第22号

発行 2014年3月31日
 発行者 JICA帰国専門家連絡会かながわ(JECK)
 事務局 横浜市中区新港2-3-1
 JICA横浜国際センター3F 国際協力連絡室内
 URL: <http://www.jeck.jp/>
 事務局長 肥後 照雄 e-mail: t_higo@cb3.so-net.ne.jp
 0463(55)6747

編集委員会 植岡 龍太郎(編集責任)
 大平一昭、佐藤満寿哉、小泉由紀子
 印刷 横浜リテラ URL: <http://www.yokohamalitera.com/>
 e-mail: info@yokohamalitera.co.jp
 横浜市戸塚区上矢部町1965-4